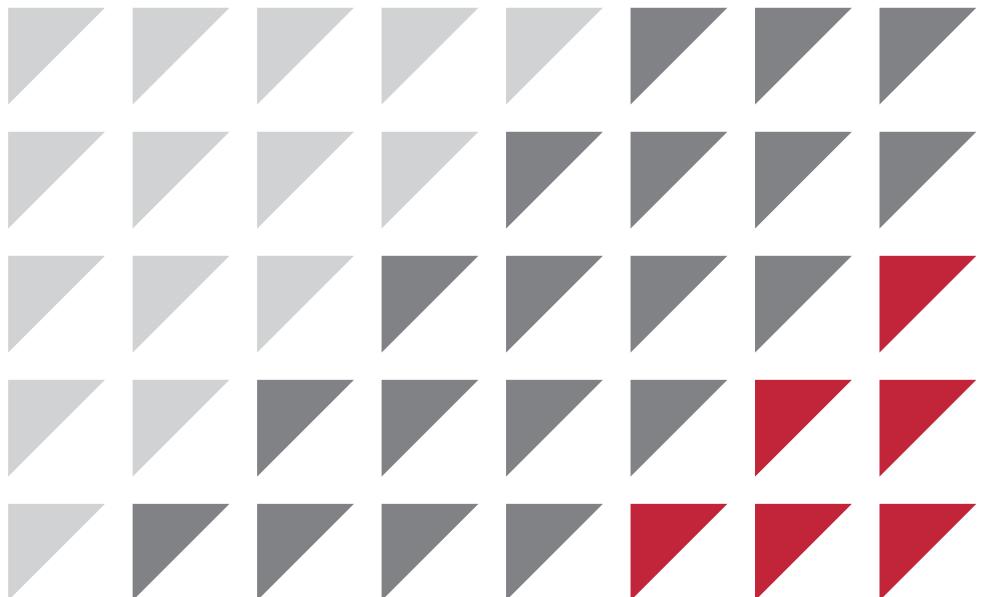


KOSUZO®
SOLUTION TO PASS EXAMS

管理論文 & 面接試験対策



KOSUZO®

SOLUTION TO PASS EXAMS

巡查部長

1

巡査部長は、若手警察官が大半を占める警察組織の中で「職務執行の中核的立場において率先垂範して実働するべきもの」と位置づけられており、それを体現するには、部下から信頼され、上司から頼りにされる存在である必要がある。あなたが理想とする巡査部長とはどのようなものかを述べた上で、その理想をどのように実現していくか、あなたの考えるところを述べなさい。

必要項目

1 はじめに

2 巡査部長の立場と役割

- (1) 立 場
- (2) 役 割

3 理想の巡査部長像

- (1) 担当実務の第一人者となる幹部
- (2) 仕事に対する情熱と誇りを持った幹部
- (3) 旺盛な責任感を持つ幹部
- (4) バランス感覚を持った指導ができる幹部

4 具体的な取組方策

- (1) 責任の自覚
- (2) 率先垂範と部下の指導育成
- (3) 指導監督の在り方
- (4) 上司の適切な補佐
- (5) 初級幹部相互間の協力と融和

5 おわりに

1 はじめに

長年にわたり減少傾向が続いている刑法犯認知件数と交通事故件数が近年増加に転じ、また、匿名・流動型犯罪グループ等の出現によって闇バイト型凶悪犯罪が連続発生するなど厳しい治安情勢が続く中、警察が国民の安全と安心を守り、真の期待と信頼を得るために、「実働の中核」として現場の最前線で活動する巡査部長の役割が非常に重要である。

2 巡査部長の立場と役割

(1) 立 場

ア 巡査の最も身近な現場幹部としてリーダーシップを発揮し、かつ、率先垂範・実働する立場である。

イ 上司である警部補、警部の補佐役であるとともに、上意下達のパイプ役である。
ウ 部下の業務管理者であり、現場における部下の指導育成者である。

(2) 役 割

ア 上司の指揮命令に従い職務を執行するとともに、上司を補佐し、積極的に報告・連絡し、意見具申を行う。

イ 職務を通じて部下を指導育成するとともに、部下の勤務実態及び身上を把握し、問題兆候を早期に発見して非違事故等を防止する。

ウ 職場の上下間の意思の疎通を図り、融和協調を推進して職務に邁進する。

3 理想の巡査部長像

(1) 担当実務の第一人者となる幹部

担当実務のプロとしての知識、技能を兼ね備えた幹部を目指す。

(2) 仕事に対する情熱と誇りを持った幹部

常に問題意識を持って仕事に取り組み、警察官である誇りと使命感を堅持した幹部を目指す。

(3) 旺盛な責任感を持つ幹部

平素から部下と苦楽を共にし、部下の模範となる行動をとるとともに、難局に直面しても決して責任を回避しない幹部を目指す。

(4) バランス感覚を持った指導ができる幹部

全人格を傾注して部下の指導育成・能力向上に努めるとともに、寛厳のバランスを保持し、信賞必罰が徹底できる幹部を目指す。

4 具体的な取組方策

(1) 責任の自覚

ア 部下の仕事の責任は全て幹部である自分が持つという気概で規律の保持に努め、士気の高揚に努める。

イ 部下の意見・要望、苦情、悩み等を十分に受け止め、解決するための努力を惜しまない。また、難しい問題については上司に相談して問題解決に当たる。

(2) 率先垂範と部下の指導育成

ア 自己啓発を怠ることなく実務能力の向上に努め、部下の能力と業務遂行状況を把握して的確な指導育成を行う。

イ 部下の公私にわたる生活について、常に留意する。

(3) 指導監督の在り方

ア 部下の非違非行を探すといった「監視」ではなく、非違非行を起こさせないよう事前予防的な指導監督を心掛ける。

イ 部下とは厳正公平に接し、信賞必罰を徹底する。

(4) 上司の適切な補佐

ア 上司の良き補佐役として適時適切に意見具申をするとともに、担当業務の遂行状況を定期的又は随時に報告する。

イ 日頃の決裁だけでなく、雑談の中でも係長、課長の業務に対する考え方、運営方針等を理解し、部下と共に達成するよう努める。

(5) 初級幹部相互間の協力と融和

ア 他係とのパイプ役として、セクト主義を廃し、組織の総合力の發揮に努める。

イ 良好的な人間関係を醸成し、積極的な情報交換等に努める。

5 おわりに

初級幹部たる巡査部長が、自らの立場を正しく認識し、その役割を果たすことは、組織管理上非常に重要である。巡査部長として、部下の指導監督を通じて組織の人才培养に努めるとともに、自らの実務能力が更に向上するよう自己研さんを欠かさず、各種警察業務を積極的に推進し、国民の期待と信頼に応えていかなければならない。

以上

KOSUZO[®]

SOLUTION TO PASS EXAMS

警 部 補

1

国民の期待と信頼に応える強い警察を実現するためには、個々の警察官が一騎当千の力を発揮し、組織全体が同一方向に邁進することが必要であり、そのためには、プレーイング・マネージャーといわれる警部補の役割が大きい。警察組織における警部補の位置づけと役割に触れた上で、各種業務の推進方策について、あなたの考えるところを述べなさい。

必 要 項 目

1 はじめに

2 警部補の立場と役割

- (1) 立 場
- (2) 役 割

3 具体的推進方策

- (1) 管内実態の把握
- (2) 優先度に応じた業務運営
- (3) 適正な業務配分と目標管理
- (4) 業務の合理化・効率化
- (5) 勤務時間管理の徹底
- (6) 実務能力の向上と士気高揚
- (7) 身上把握の徹底

4 おわりに

1 はじめに

社会情勢の変化による犯罪の質の変化や捜査環境の悪化、新たな警察事象や急増する警察相談への的確な対応等、警察事象は年々複雑・高度化するとともに、業務量も大幅に増大している。このような厳しい環境の中で安全・安心な社会を実現・維持していくためには、より一層強固な警察組織の構築が求められており、現場において責任者たる地位にある警部補の役割は重要である。

2 警部補の立場と役割

(1) 立 場

警部補は、警察組織における中級幹部として、警察署にあっては係規模の業務を任せられ、自ら現場責任者として実働し、部下を適切に指導監督しながら、いかなる事態にも迅速的確に対処し、実績を上げていかなければならない責任を有する。

(2) 役 割

ア 業務遂行・管理における役割

部下の仕事の成果をチェックするだけでなく、組織が求める係の仕事の進め方(プロセス)及び実績が他の係と比較して適正かどうかを四半期ごとに検証するとともに、是正するべき点があれば修正の上、実行に移す。

イ 人材育成の役割

公私にわたり部下とのコミュニケーションを図り信頼関係の醸成に努めるとともに、部下の能力や適性を適切に評価・判断し、それぞれの資質や実務能力の更なる向上を図って現場執行力を強化するなど、人材の早期育成に努める。

ウ プレイヤーとしての役割

平素から自己研さんに努めるなど実務能力の向上を図り、困難な業務は率先垂範して引き受け、成果を上げて係全体の評価を引き上げるなど、リーダーシップを発揮する。

3 具体的推進方策

(1) 管内実態の把握

管内の特徴や犯罪発生状況等、担当業務を綿密に分析して実態を把握し、あらゆる機会を通じて地域住民の意見・要望等を把握して、最も効果的な時間・場所等に警察力を集中させるなど、実績向上のために効率的な業務運営を図る。

(2) 優先度に応じた業務運営

治安情勢の分析結果と地域住民の意見・要望等を踏まえ、業務の優先度を決定し、きめ細かな人員配置、弾力的な勤務時間管理等、臨機応変な業務管理を行う。

(3) 適正な業務配分と目標管理

部下の能力・経験、業務内容、推進状況を詳細に把握し、係内の業務負担率と人員配置について客観的に検討して適正化を図る。また、本部や署全体の目標と管内の実態から分析した目標を個別具体的に数値化して達成可能な目標を設定し、常に達成度を把握しながら検証を行い、必要があれば修正する。

(4) 業務の合理化・効率化

各種業務について他課・係と重複していないか、無駄はないか、もっと効率的な方法はないか等、極力無駄を省くことにより業務の効率化を推進するとともに、係内に業務の合理化や改善に関する提案制度を導入するなど、係全体に業務改善意識を醸成する。

(5) 勤務時間管理の徹底

コスト意識を持ち、残業は必要最小限の人員にとどめ、勤務時間内に業務を達成する効率の良い職場環境を構築するとともに、必要に応じて弾力的で柔軟な勤務計画を策定し、勤務時間管理の徹底を図る。

(6) 実務能力の向上と士気高揚

警部補として、平素から法令研さんを始めとする実務能力の向上及び部下指導力の向上に努めるとともに、現場における業務を通じた実戦的な指導教養をもって係内に相互啓発気運の醸成を図る。また、部下は公平に取り扱うとともに、真に汗を流して頑張った者とそうでない者について、適正な評価と処遇に努め、士気の高揚による業務の効率的運用を図る。

(7) 身上把握の徹底

部下が志半ばで職場を去ることがないように、個々面接や家庭訪問等を通じて公私にわたり身上を把握し、悩みを打ち明けられたら親身になって相談に乗るなど、勤務時間外においても頼れる上司で居続けるとともに、平素から同僚の警部補等と部下の身上に関する情報交換を行うなど、多角的な情報収集を行う。

4 おわりに

警察組織の急激な若返りによって、社会経験や実務能力の未熟な若手警察官が組織内において多数を占めている。組織の中核的立場にある警部補として、組織の向かうべき方向性を深く認識し、現場責任者として部下の一人一人を指導育成するとともに、国民の期待と信頼に応える強い警察の実現に力を尽くしていく所存である。

以上

KOSUZO®

SOLUTION TO PASS EXAMS

警 部

1

警部は、警察署において、課長として署長を補佐し、担当業務を管理し、職員の身上把握・指導を行うなど、警察組織の中でも重要な階級である。組織が期待する理想の警部像とはどういうものか、あなたの考えるところを述べなさい。

必 要 項 目

1 はじめに

2 警部の立場と役割

- (1) 業務運営の要
- (2) 組織運営の要
- (3) 非違事案防止対策の要

3 警部に求められる資質と能力

- (1) 豊かな人間性と高い指揮能力
- (2) 部下との信頼関係の醸成
- (3) 公平な人事管理
- (4) 報告・連絡の徹底による業務管理
- (5) ハラスメントに対する危機管理
- (6) 対外的な姿勢
- (7) 積極的かつ効率的な組織運営
- (8) ワークライフバランスに配意した業務運営
- (9) 業務の合理化・実質化の推進

4 おわりに

1 はじめに

団塊世代の大量退職に伴う世代交代により警部階級の若年化が著しく進んでおり、スピード感のある業務推進や新たな刑事司法への対応力等が期待される一方で、社会性や実務経験の未熟さが職務に及ぼす影響が懸念されている。警察署において担当課の最高責任者である課長は、業務管理と人事管理の要であり、その采配いかんが明確に結果として表れるほか、非違事案の未然防止・拡大防止に向け極めて重要な責務を担うなど、その立場と役割は非常に重要であることを肝に銘じなければならない。

2 警部の立場と役割

(1) 業務運営の要

所属長の運営方針に従い、担当課における人事管理と業務管理を徹底し、厳正な規律保持の下に業務を効率的かつ的確に処理し、その結果に責任を負う。

(2) 組織運営の要

他課の業務運営にも積極的に参画し、連絡・調整の役割を果たし、組織が総合的に機能するよう努める。

(3) 非違事案防止対策の要

組織の中核幹部として、部下の模範となるよう高いモラルを体現して警察職員としてのるべき姿を示し、組織全体に緊張感を保持させるとともに、常に前向きな姿勢を堅持して積極果敢に職務を遂行することはもちろん、職場全体に対する目配り・気配りを怠らず、ハラスメント等の非違事案防止に万全を期する。また、非違事案が発生した場合は、自ら中心となって事案処理に当たり、再発防止対策の構築とその徹底に努める。

3 警部に求められる資質と能力

(1) 豊かな人間性と高い指揮能力

警察業務の特殊性から、緊急かつ重要な事案であればあるほど、警部には高度な指揮能力と決断力が求められる。警察組織の幹部として、平素から、その地位にふさわしい人格・識見、分別、態度等はもとより、あらゆる警察事象に対応できる判断力、洞察力、先見性を養い、更なる資質の向上に努める。

(2) 部下との信頼関係の醸成

強いリーダーシップを発揮して日々の警察活動を推進していかなければならぬ立場にあることから、自らの階級に驕ることなく、何事に対しても真摯に率先垂範して取り組むなど部下の手本となり、信頼関係の醸成に努める。また、係長クラスの幹部職員に対しては、報告・相談をしやすい雰囲気づくりに配意とともに、悩みや意見具申を傾聴することで信頼関係を強固なものとする。

(3) 公平な人事管理

適正な評価と信賞必罰の毅然とした態度を堅持し、部下が仕事に集中できる職場環境を構築する。また、部下の悩みごと等に真摯に耳を傾け、過度な負担が一部の者にかかっていないかなど現状を直接把握するほか、非違事案から部下を守るために早期発見に向けた情報の吸い上げに配意する。

(4) 報告・連絡の徹底による業務管理

仕事を部下任せにすることなく、自らの責任において報告を受け、必要な検討を行い、具体的に指示を出して必ず結果を確認する。特に、高度な内容の業務や前例のない起案等については、自ら積極的に参画して知恵を絞り、要所における報告・連絡を行うなど、円滑な業務運営に努める。

(5) ハラスメントに対する危機管理

部下は、大切な組織の人的財産であり、警察業務を共に推進する大切な仲間であることを常に意識し、平素から自らの言動に十分注意することはもとより、前兆を見逃すことなく必要な指導監督を尽くし、ハラスメント事案の絶無を期する。

(6) 対外的な姿勢

幹部として上位になるほど、警察組織の顔として対外的な関係性がより重みを増してくるが、常に国民目線で、国民のための警察活動を推進する真摯な姿勢を堅持する。また、部下や組織の失敗には迅速に対応し、外部への説明責任を尽くすなど、組織のダメージ・コントロールに努める。

(7) 積極的かつ効率的な組織運営

部下に指示する立場となり、直接的に警察業務を行う機会が減るため、業務を効率的に進め成果を上げていくには、部下の育成が極めて重要となる。組織や所属長の運営方針を深く理解し、達成に向けた組織運営に努めるとともに、将来の組織強化に向けた施策についても、警部として自らが強力に推進していく。

(8) ワークライフバランスに配意した業務運営

全ての職員が職務にやりがいや充実感を持って取り組み、家庭や地域社会等でも人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できるよう、仕事と生活の調和に配意した働き方を選択できる職場とするための企画・牽引を行うなど、明るく風通しの良い職場環境づくりの中心的役割を担う。

(9) 業務の合理化・実質化の推進

業務の合理化・実質化は、ワークライフバランスを実践する上で基本となる。国民のニーズのうち、重点的に対応するべき業務を見極め、重要性が低い、又は負担の大きさに対して効果が低いといった業務については大胆な見直しを図るなど、業務の合理化・実質化を図る。

4 おわりに

警察署において何事にも中心的役割を果たすべき課長が機能していなければ、警察署全体が機能不全ともなりかねず、「国民のため」の警察の責務を果たすことはできない。平素から警部たるにふさわしい人格・識見、実務能力の涵養に努めるとともに、署員と強い信頼関係を構築し、有事の際には自ら先頭に立って指揮をとり、国民の期待と信頼に応えていかなければならない。

以上

KOSUZO[®]

SOLUTION TO PASS EXAMS

警

視

1

都道府県警察において警視の階級に在る者は、所属長又はそれに準じる要職として活躍することを期待されているが、今日の警察を取り巻く厳しい情勢の中で、国民の負託に応える強い組織であり続けるためには、どのように管理監督をして組織を動かしていくか、警察組織における最上級幹部として、自らの在り方を含め、あなたの考えるところを述べなさい。

必 要 項 目

1 はじめに

2 警視の立場と役割

3 管理監督の在り方

- (1) 管理監督者の責務
- (2) 管理監督者的心構え

4 具体の方策

- (1) 管理監督者としての資質の向上
- (2) 公平な対応
- (3) 士気の高揚
- (4) 指導監督の徹底
- (5) 部下の育成
- (6) ハラスメントの絶無
- (7) 非違事案の絶無

5 おわりに

1 はじめに

日々複雑・多様化する警察事象を前に、警察は、国民に負託されている責務を遂行するため、いかに困難な状況にあろうとも積極果敢に取り組み、適時適切に対処しなければならないという職務の特殊性から、階級制を設けて指揮命令の権限を明確化しているが、警視は、所属における最高位の指揮権限を有するのであって、組織の階級制を正しく認識し、適切な管理監督を果たしていかなければならない。

2 警視の立場と役割

警視は、事件事故等の警察事象に対する最高指揮官であるとともに、最近の治安情勢、警察をめぐる諸問題を踏まえ、適時適切に業務管理、人事管理及び危機管理等を行うなど的確な組織運営を行い、併せて、全てのプロセスにおいて、法令等が確実に遵守され、適正に遂行されているかを監督する役割を担っている。

3 管理監督の在り方

(1) 管理監督者の責務

ア 管理監督の意義

警察における「管理」とは、業務管理、人事管理に代表されるように、組織がその機能を十分に発揮して目的を達成するため、計画を立て命令するなど権限を持って人を動かすことをいい、「監督」とは、その過程において規則や命令等に従い業務が適切に遂行されているかを監視し、指導督励することをいう。

イ 管理監督者の役割

警視は、管理監督者の立場にあり、執行務の適正を図るために、部下職員の職務について必要な指揮・命令及び指導を与えるとともに、規律の保持及び職務執行の適否を監督し、その成果に責任を負わなければならない。

ウ 管理監督者の職務

管理監督者である警視は、組織の中で上・横・下との関係を円滑に保持しながら業務を推進していくことがその職務であるが、部下を持つ管理監督者の職務の中心となるのは、与えられた目標を部下を通じて達成することであり、その意味で、部下との関係が最も重要となる。

(2) 管理監督者の心構え

管理監督者である警視は、「業務に関する知識・技能」「指導力」及び「人間的資質」の3要素を基本的に備えていなければならないのであり、現状に満足することなく、常に向上心を持って最新かつ高度なものを身につけるべく、不断の自己研さんが必要である。

4 具体の方策

(1) 管理監督者としての資質の向上

自己の階級にあぐらをかくことなく、自ら知識・技能の修得に努め、その知識を指揮にいかす。また、管理監督者としてふさわしい言動、立ち居振る舞いを常に意識して人間的な資質の向上に努める。

(2) 公公平な対応

公平であることは大前提であり、仮にも私情によって特定の者を厳しく叱責したり、また、他の幹部の理不尽な言動を見て見ぬふりをしてはならない。そのためにも自分自身を厳しく律する。

(3) 士気の高揚

組織力を高めるためには職員の自主性や問題意識を高めることが重要であり、そのためには士気の高揚が必要であることから、指導をすることのみにとらわれることなく、功を褒めて労をねぎらうなど各職員に直接声をかけ、職場全体の士気の高揚を図る。

(4) 指導監督の徹底

誠意と温情を持って部下職員に接し、問題の把握に至った場合には、遅滞なく上司に報告をするとともに、その原因や情状等を考察して事後の指導に努める。

(5) 部下の育成

複雑・多様化する警察事象に的確に対応するためには、平素から社会情勢を見据え、将来的に警察業務に波及する可能性を認識しておく必要があり、また、有事の際には部下職員が一糸乱れぬ統制によって職務を遂行することができるよう、職員個々のレベルアップを図る指導教養に努める。

(6) ハラスメントの絶無

組織における階級制を正しく認識するとともに、ハラスメントに関する正しい知識を持たせ、平素から幹部職員の言動に十分な注意を払い、ハラスメントに抵触するものは見逃すことなく指導を行い、ハラスメント事案の絶無を期する。

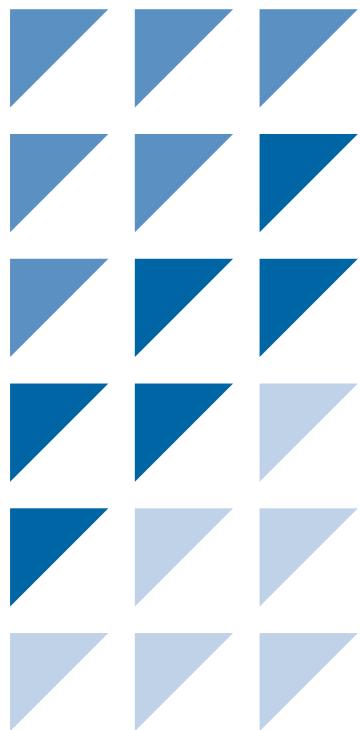
(7) 非違事案の絶無

警察組織に最もダメージを与えるのは職員の非違事案である。管理監督者の最重要課題として、人事管理と業務管理を徹底して非違事案の絶無を期する。

5 おわりに

警察組織内において発生する各種ハラスメントは、幹部職員において、組織における階級制や管理監督の在り方が正しく認識されていないことが温床となっていることから、自ら最高位の階級にあることを自覚して自己研さんに励むとともに、部下の幹部職員に対しても適切な管理監督について指導を尽くし、真に強靭な組織を作り上げなければならない。

以上



KOSUZO®

面接試験対策

面接試験対策

CONTENTS

I. 面接試験の重要性

- 1 面接試験の目的 **168**
- 2 面接試験の占める割合 **168**

II. 面接試験の仕組み

- 1 面接官の構成 **169**
- 2 面接試験の方法 **170**
- 3 面接試験評定項目 **171**

III. 面接の留意事項

- 1 事前準備 **172**
- 2 基本的な心構え **174**
- 3 面接官の着眼点 **175**
- 4 姿勢・態度等 **177**

IV. 想定質問事項

- 1 幹部としての心構え等に
関すること **178**
- 2 業務に関すること **178**
- 3 人事管理に関すること **179**
- 4 職務倫理に関すること **180**
- 5 その他プライベートに
関すること **180**
- 6 各部門に関すること **180**

V. 面接想定問答

- 1 巡査部長 **185**
- 2 警部補 **188**
- 3 警 部 **191**
- 4 警察を取り巻く新たな事象への
対応関係 **193**

VI. 術科試験

- 1 点検・教練 **205**
- 2 拳銃操法 **205**
- 3 逮捕術 **206**
- 4 警備指揮 **206**

VII. 号令の実例

- 1 点検・教練 **208**
- 2 警備指揮 **214**

ここでは、「口述試験」と「術科試験」を併せて「面接試験」として説明します。

1 面接試験の目的

面接試験の目的は、当該受験者が上位階級の幹部としての資質を有しているか、そして、この人物を昇任させることは組織にとって有益かを判断することにあります。具体的には、上位階級の識見を有しているか、幹部として業務に関する知識を持っているか、上級幹部として部下の指揮を適切に行うことができるか等、幹部にふさわしい資質を有しているかを見極めることにあります。

上位階級の業務を行うことができるかという判断をするためには、短答式(いわゆるSA)や論文等で実施される筆記試験のみでは限界があります。筆記試験は受験者の知識や考え方を知ることはできますが、受験者の態度、信念、意欲、向上心を知ることはできません。そこで、最終的に判断をするためには、人物評価を行う場である面接による口頭試問が必要であり、かつ重要となってきます。

一方、受験者の皆さんにしてみれば、仕事に対する取組姿勢、態度や考え方を含めた自分というものを組織の上級幹部である面接官に直接アピールできるせっかくの機会ですので、高い評価が得られるよう全力を尽くしてもらいたいと思います。

2 面接試験の占める割合

論文試験を突破し、めでたく面接試験を受験することになった皆さんには、これまでの筆記試験や勤務評定等を基に、各都道府県警察の規程による比率に基づいた基礎点数が積み上げられ、1番から順に最後の人まで仮の順位が付けられています。

この基礎点数に面接試験の点数が加えられ、最終的な順位が決まり、合否が決定されます。面接試験の持つ点数の比率は、各都道府県警察によって異なりますが、おおむね3～4割の範囲となります。

したがって、面接試験の結果の良し悪しで順位が入れ替わり、明暗を分けることもありますので、筆記試験の結果があまり良くなかったとしても合格を勝ち取ることができますし、筆記試験の結果が良かったと安心していると苦汁をなめることにもなりかねません。

筆記試験の結果にかかわらず、全力で面接試験に臨むことが重要です。